

ダーのデジタル化に伴って更に拡大されることになって
いる。(気象庁；饒村 曜)

(3) 記念のステンドグラス

この写真は学問の象徴「ミミズク」のステンドグラス
で、大正7(1918)年に仙台市片平丁に造られた東北大
学理学部物理学科所属の小さな赤レンガ造りの建物に飾
られてあったものです。現在は物理棟7階の地球物理学
教室中央広場の窓に、理学部の記念として残されていま
す。

大正時代につくられたステンドグラスは現在、宮城県
内には仙台高等裁判所のもの(大正15年作)と、この
「ミミズク」ぐらいだと思います。日本におけるステ
ンドグラスの製作技法は明治・大正時代にドイツとアメ
リカから導入され、この「ミミズク」はアメリカ技法に
よると推定されています。この時代につくられたステ
ンドグラスで、もっとも有名なものは慶応大学図書館にあ
る重要文化財「ベンは剣よりも強し」であり、そのほか
那須御用邸の「孔雀図」や各官家所蔵のものなどがあり
ます。

前記の小さな赤レンガ造りの建物は、大正3年から物
理学教室の兼任教授であった東京大学の岡田武松(の
ち、中央气象台第4代台長)と懇意であった、宮城県伊
具郡金山村の蚕糸業の佐野理八が気象学研究室として寄

贈されたもので、数学・物理学図書室の北に接する敷地
面積約100m²の二階建てで、中央には風をはかる風力
塔がそびえていました。この建物は昭和20(1945)年、
発展独立した地球物理学教室の所属となりましたが、理
学部が片平丁から現在の青葉山に移転するのにもなっ
て解体されました。

学問の象徴「ミミズク」は大正から昭和のはじめ、さ
らに太平洋戦争では物理学教室の建物の約70%が焼失し
ましたが幸いにも戦火を免れ、戦中・戦後を通じて学問
の歩みを見つめてきました。

(東北大学；近藤純正)

文 献

- (1) Pernter, J.M., Exner, F.M., 1922: Meteorologische Optik, 2. Aufl., Wilhelm Braunmüller, Wien, Leipzig. S. 410.
- (2) 藤原咲平, 昭和6年: 気象光学, 岩波講座物理学及び化学, 岩波書店, 175-176.
- (3) WMO, 1966: International Meteorological Vocabulary, WMO, Geneva. p. 120.
- (4) Tricker, R.A.R., 1970: Introduction to Meteorological Optics, American Elsevier, N.Y. p. 134.
- (5) Greenler, R., 1980: Rainbows, Halos, and Glories, Cambridge Univ. Press, N.Y. 52-53.



写真1 珍しい水平弧(かさ現象のひとつ).
(昭和60年5月15日11時50分, 富山県小矢部市にて. 磯部律子氏撮影)

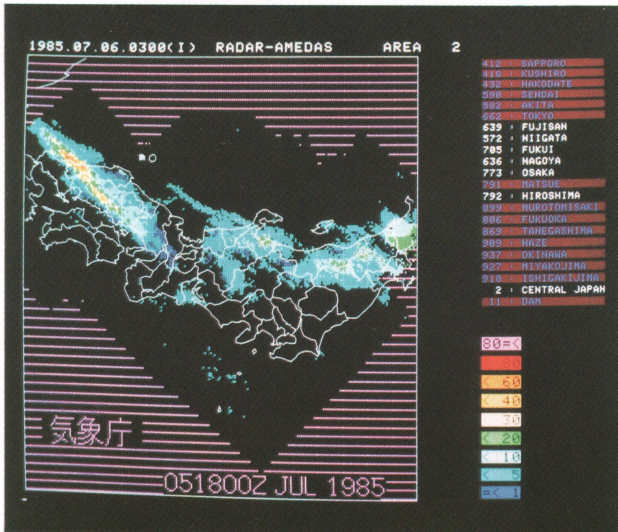


写真2 レーダー・アメダス雨量合成図.
(昭和60年7月6日3時)

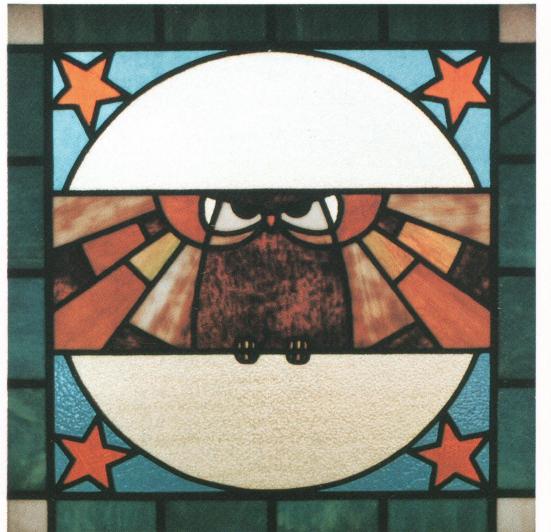


写真3 記念のステンドグラス.